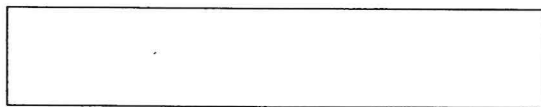


令和7年度

シラバス



商業科1年



教育課程		1
国語		2
地理歴史		6
数学		10
保健体育		12
芸術		16
外国語(英語)		22
商業		24

入 学 年 度				令 和 7 年 度				備 考	
学 年				1	2	3	計		
教 科		科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2		
		言語文化	◎2	2			2		
		論理国語	4		2	2	4		
		文学国語	4		2	2	4		
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2		
		歴史総合	◎2	2			2		
	公 民	公共	◎2		2		2		
		政治・経済	2			2	2		
	数 学	数学Ⅰ	◎3	4			4		
		数学Ⅱ	4		2	2	4		
	理 科	科学と人間生活	◎2		3		3		
		化学基礎	○2			▲2	▲2		
		生物基礎	○2			▲2	▲2		
	保健体育	体育	◎7～8	3	2	3	8		
		保健	◎2	1	1		2		
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2		
		美術Ⅰ	○2	□2			□2		
		書道Ⅰ	○2	□2			□2		
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	2	2		4		
		論理・表現Ⅰ	2			2	2		
	家 庭	家庭総合	◎4		2	2	4		
	情 報	情報Ⅰ	2						「情報Ⅰ」は
	科 目 単 位 数 計			20	18	17	55		「情報処理」で代替
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	商 業	ビジネス基礎	◇2～4	3			3		
		課題研究	◇2～4			3	3		
		総合実践	2～4			3	3		
		マーケティング	2～4		4		4		
		観光ビジネス	2～4			2	2		
		簿記	2～4	3			3		
		財務会計Ⅰ	2～4		☆4		☆4		
		原価計算	2～4			■4	■4		
		情報処理	◎2～4	2	2		4		
		ソフトウェア活用	2～4		☆4		☆4		
		ネットワーク活用	2～4			■4	■4		
	科目単位数計			8	10	12	30		
総探	福山みらい創業塾	◎3～6	2	2		4	「総探」の1単位は		
	キャリアプラン				1	1			
合 計			30	30	30	90	「課題研究」で代替		
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3			
週当たり総時数			31	31	31	93			

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	「現代の国語」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を書くことができる。									
教 材		使 用 教 科 書 三省堂 新現代の国語 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し 入門	・自身の基礎力の確認と定着を図る。 ・気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考える。		1 学 期 中 間		○	○	○	
		5月	わかり合うために	・情報を読み解き、要約し、まとめる				○	○	○	
		6月	確かな情報を伝えるために	・文章を把握し、資料を加え考えをまとめ、発表する。		1 学 期 期 末		○	○	○	
		7月	情報を生かすために	・文章を把握し、調べ、報告書を書く。				○	○	○	
	2 学 期	9月	よりよい読み手になるために	・文章の中から、筆者の主張をつかむ。		2 学 期 中 間		○	○	○	
			場に応じて伝えるために	・聞き手を意識して、発表原稿を考える。				○	○	○	
		10月	説得力を高めるために	・ブックトークを行うことで、説得力を高めるためにどうすればよいか考える。				2 学 期 期 末	○	○	○
		11月		・パネルディスカッションの例を参考にし、話し合いを行う。					○	○	○
		12月	考えを共有していくために	・伝えることの意味や方法を理解し、話す・聞くことについて考える。		2 学 期 期 末		○	○	○	
	3 学 期	1月	よりよい書き手になるために	・テーマに基づき文章を書き、批評し合う。				学 年 末	○	○	○
2月											
3月											
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)漢字の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めるように努めましょう (4)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。									

教 科	国語	科 目 名	現代の国語
-----	----	-------	-------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「言語文化」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 第一学習社 高等学校 言語文化 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア								
学習の内容	1 学 期	4月	古文入門『児のそら寝』ほか	古文の文章になれるとともに、現代に通じる話の面白さを知る。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	漢文入門 歌物語『伊勢物語』	漢文のきまりを学び、訓読になれる。 話の中で和歌が果たしている役割を押さえる。		1 学 期 期 末	○	○	○	
		6月	故事成語「漁父之利」ほか	現代使われている言葉が、漢文由来することを知る			○	○	○	
		7月	近現代の詩歌(俳句など)	詩歌のリズムに触れ、俳句を作成する。		2 学 期 中 間	○	○	○	
	2 学 期	9月	随筆『枕草子』『徒然草』 史伝「完璧」ほか	自由に記述された随筆を読んで、ものの見方考え方を理解する。 文章の内容や作品に現れるものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。		2 学 期 期 末	○	○	○	
		10月	日記『土佐日記』 漢詩(唐詩・日本の漢詩)	内容や展開を的確に捉え、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、中国と日本の文化との関係に理解を深める。			○	○	○	
		11月	軍記物語『平家物語』	作品に現れるものの見方考え方を捉え、内容を理解するとともに、歴史的な文体について理解し、そのリズムを読み味わう。		学 年 末	○	○	○	
		12月								
		3 学 期	1月	論語	孔子のものの見方考え方を理解する。			○	○	○
	2月		古典の詩歌	和歌の鑑賞の仕方を理解し、特徴を捉える。			○	○	○	
	3月									
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)指示したノートの取り方を守り、しっかりとまとめましょう。 (2)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)しっかりと声を出して音読をしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		しっかりと、ノートを取りましょう。 古文・漢文は予習・復習が大切です。毎日の積み重ねを怠らないようにしましょう。								

教 科	国語	科 目 名	言語文化
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんとルールに則り写し、自分なりにまとめている。	板書事項をルールに則り写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	地理歴史		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	地理総合		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を培う。									
教 材		使用教科書：	第一学習社 帝国書院	高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる 標準高等地図			1 学 期 期 末 2 学 期 中 間 2 学 期 期 末 学 年 末				
		補助教材：	第一学習社 第一学習社	地理総合ノート コネクト地理総合2024							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション		・オリエンテーション、国名クイズを実施			○		○	
		5月	第1編 1章 地図や地理情報システム と現代世界		・位置の表し方、地図とGISの活用を理解 ・領土問題、交通、貿易などを理解する。			○	○	○	
		6月	第2編 1章 生活・文化の多様性と 国際理解		・世界の生活を理解し、文化について資料読取を実践する。 ・世界の気候について理解する。			○	○	○	
		7月			・世界の「衣」「食」「住」を理解する。			○	○	○	
	2 学 期	9月			・産業の発展、情報産業などを理解する。 ・宗教、世界の文化などを理解する。			○	○	○	
		10月						○	○	○	
		11月	第2編 2章 地球的課題と国際協力		・持続可能な開発目標(SDGs)の理解する。 ・貧困問題、人口問題、食糧問題などを理解する。 ・資源、エネルギー、都市問題などを理解する。			○	○	○	
		12月			・地球環境問題を理解する。 ・民族問題、紛争を理解する。			○	○	○	
	3 学 期	1月	第3編 1章 自然環境と防災		・世界の大地形、自然災害、 日本の気候、災害への備えなどを理解する。			○	○	○	
		2月	第3編 2章 生活圏の調査と 地域の展望		・地域調査の方法を理解する。 さらに、調査、成果発表などを行う。			○	○	○	
		3月									
学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書、地図帳、地理総合ノートは必ず持参すること。 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 ・地理総合ノートを使って授業を行います。 ・地理総合ノートは学期末に回収、点検します。チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能…地理総合ノート、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題、レポート (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		・定期考査と別に、授業内で単元ごと的小テストを行います。									

教 科	地理歴史	科 目 名	地理総合	
-----	------	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ、具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようとすることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等を行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	地理歴史		履修学年	1 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	歴史総合		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		世界の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や因果関係などを総合的に考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
教 材		使用教科書「歴史総合」実教出版 補助教材「歴史総合 演習ノート」実教出版)								
学習の内容	1 学期	4月	第1章 近代化への胎動 ・江戸時代の安定と動揺、ヨーロッパのアジア進出と争いの動きについて学ぶ。 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」				1 学期 期 末	○	○	○
		5月	・国民国家を形成していく欧米の状況と、変容を迫られるアジア諸国の様子について学ぶ。 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成					○	○	○
		6月	・国民国家の成立と世界各地での民族的な抵抗の様子について学ぶ。 ・明治期における日本の政治的近代化への過程と国際関係について学ぶ。					○	○	○
		7月	第4章 帝国主義の時代 ・帝国主義諸国による世界分割の動きと、アフリカ・東アジア・太平洋地域に与えた影響について学ぶ。 ・日清・日露戦争を通じた、日本の国際的地位の動向について学ぶ。 ・産業革命による日本経済と社会の変容について学ぶ。					○	○	○
								○	○	○
	2 学期	9月	第5章 第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の展開と影響、大戦後の国際秩序の形成について学ぶ。 ・ワシントン体制のもと、米英と協調路線をとり、国内でも政党政治の時代を迎えた日本の動向について学ぶ ・アジア、東ヨーロッパなどの民族自決・民族運動の展開について学ぶ。				2 学期 中 間	○	○	○
		10月	・日本国内における社会運動の展開と普通選挙実現にむけた経過について学ぶ。 第6章 経済危機と第二次世界大戦					○	○	○
		11月	・世界恐慌と各国の対応、ファシズムの時代への移行について学ぶ。 ・東アジアを緊張させた日本の満州侵略とアメリカとの対立、第二次世界大戦の勃発について学ぶ。 ・戦時下における日本国内の社会的・経済的状況について学ぶ。 ・日本の民主化、朝鮮の分断、アジアにおける米ソの対立について学ぶ。					○	○	○
		12月	・アメリカとの関係を強める道を選択していく日本の動向について学ぶ。					○	○	○
								○	○	○
	3 学期	1月	第7章 冷戦と脱植民地化 ・冷戦の深刻化と、植民地の独立や日本の主権回復に与えた影響について学ぶ。 ・日本の国際社会の復帰と高度経済成長について学ぶ。				学 年 末	○	○	○
		2月	第8章 多極化する世界 ・米ソ二大国主導から多極化し、国際秩序が変化していく過程について学ぶ。 ・現代世界の大きな課題である地域・民族紛争、国際的なテロ、発展途上国の貧困問題について学ぶ ・近年の東アジアにおける相互交流と相互理解の動きについて学ぶ					○	○	○
		3月						○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)平日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。								

教 科	地理歴史	科 目 名	歴史総合
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科	数学		履修学年	一学年 4単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学Ⅰ		単位数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理原則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。					中 間 考 査	○		○
教材		使用教科書 新数学Ⅰ（東京書籍）						期 末 考 査	○	
学習の内容	1 学 期	4月	数の計算	・義務教育範囲の数学的な計算の技術について復習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	数と式	・文字を使った式や展開、因数分解といった文字を使った式の計算のルールについて学習する。				○	○	○
		6月		・平方根や分数の性質について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・1次方程式、1次不等式、2次方程式について、解き方を学習する。				○		○
	7月	2次関数	・2次関数の性質やグラフとの関係を学習する。			中 間 考 査	○	○	○	
	9月		・2次関数の最大値・最小値について学習する。				○	○	○	
	10月		・2次関数のグラフを使った2次不等式の解法について学習する。			○	○	○		
	11月	三角比	・タンジェント、サイン、コサインの定義や活用の仕方について学習する。			期 末 考 査	○		○	
			・三角比の面積の公式や、正弦定理、余弦定理を用いて実際に様々な図形に活用する。				○	○	○	
	12月					学 年 末 考 査				
1月	データの分析	・集合を使った論理的な考え方を活用して、命題の証明について学習する。			○		○	○		
3 学 期	2月	集合と論証	・データの特徴を把握し、整理してデータを読み解く手法について学習する。			○	○	○		
	3月									
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		週に1回行う計算テストも評価の対象になるので、週末課題にもしっかり取り組みましょう。								

教 科	数学	科 目 名	数学 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ, 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科 科目名	保健体育 体育	履修学年 単 位 数	1 学 年 3 単 位	考 査 範 囲	評価の観点			
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。				困				
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション ・授業の心得、体育館施設利用の説明 集団行動 ・集団行動の基本的動作確認 第2ラジオ体操 ・第2ラジオ体操の動きの確認	実 施 し ま せ ん						
		5月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習							
		6月	球技Ⅰ・武道 選択 ・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習							
		7月	体育理論 ・スポーツの発祥と発展(①～③)							
		9月	球技Ⅱ・武道 選択 ・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習							
		10月	陸上競技 ・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける							
	2 学 期	11月	体育理論 ・スポーツの発祥と発展(④～⑥)							
		12月								
	3 学 期	1月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習							
		2月	球技Ⅲ ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習							
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体 育
-----	------	-------	-----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科 科目名	保健体育 保健		履修学年 単 位 数	1 学年 1 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉現代高等保健体育ノート								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション 健康の考え方(1)		・国民の健康課題や健康の考え方についての学習		一 学 期 期 末	○	○	○
		5月	生活習慣病などの予防と回復		・生活習慣病における健康課題についての学習			○	○	○
		6月			・がんにおける健康課題についての学習 ・運動、食事、休養・睡眠における健康課題についての学習			○	○	○
		7月	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		・喫煙と飲酒における健康課題についての学習 ・薬物乱用における健康課題についての学習			○	○	○
	2 学 期	9月	精神疾患の予防と回復		・精神疾患の特徴についての学習 ・精神疾患における健康課題についての学習		二 学 期 期 末	○	○	○
		10月	現代の感染症とその予防		・感染症における健康課題についての学習 ・性感染症・エイズにおける健康課題についての学習			○	○	○
		11月								
	3 学 期	12月	健康の考え方		・健康に関する意思決定・行動選択についての学習 ・健康に関する健康づくりについての学習		三 学 期 期 末	○	○	○
		1月	安全な社会づくり		・事故の現状と発生要因についての学習 ・安全な社会の形成や交通事故防止等についての学習			○	○	○
		2月	応急手当		・応急手当の意義とその基本についての学習 ・日常的な応急手当や心肺蘇生法についての学習			○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。 ・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をしてもらい、取組状況を確認します。								

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查レポート	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解している。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
	安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查レポート	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解している。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題発見、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する	考查レポート	事象や情報から課題を発見し、危険予測・危険回避したり、傷害の悪化を防止したり、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す	ノート授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心をもたない。

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科	芸術		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	音楽Ⅰ		単位数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。								
教材		使用教科書＜音楽之友社＞ON!Ⅰ 副教材＜啓隆社＞MUSIC NOTE								
学習の内容	1 学 期	4月	高校音楽の扉を開けて イメージをもって歌おう！ ・ 校歌により親しみ、全員で斉唱する喜びを体験するとともに、表現を工夫しながら多様な表現形態による歌唱を体験する。 楽典Ⅰ ・ 音楽の基本的な知識を理解する。音名を理解できるようになる。			実 施 し ま せ ん	○	○	○	
		5～6月	諸外国の曲を歌おう ・ 諸外国の歌曲と日本語の曲との違いを理解し、歌曲がもつ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などとかかわらせて、イメージをもって歌う。				○	○	○	
		7月	中世・ルネサンス～バロック時代の音楽 ・ 中世・ルネサンス期～バロック時代の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。 創作(1) 変奏をしてみよう ・ メロディーの雰囲気をもどくように変化させたいかイメージしながら、そのための方法を工夫して変奏をする。				○	○	○	
	2 学 期	9～10月	ギターを弾こう ・ ギターの音色や奏法の特徴を生かし、曲想にあった音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏す 楽典2 ・ 音楽の基本的な知識を理解する。リズムを理解できるようになる。				○	○	○	
		11～12月	打楽器を演奏しよう ・ 打楽器(特にラテン・パーカッション)の基本的な知識・奏法を理解し、曲想やリズムに応じた音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏する。 古典派の音楽 ・ 古典派の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。				○	○	○	
		1～3月	舞台芸術の世界 ・ オペラ、ミュージカル、歌舞伎などの舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。 世界の音楽 ・ 日本や諸外国の民謡の旋律や、声・楽器の音色の特徴、楽曲の文化的・歴史的背景に関心をもち、理解を深める。 創作(2) 旋律をつくってみよう ・ 音階の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫して、自己のイメージにあった音楽をつくる。				○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 教科書とMUSIC NOTE(5月ごろ配布)を必ず持ってきてきましょう。 (2) 歌唱・器楽・創作・鑑賞の4分野について幅広く学びます。 (3) 鑑賞の際は、「感じたこと」「気づいたこと」「考えたこと」を記入します。 (4) 表現(歌唱・器楽・創作)の際は、楽器の扱い等丁寧にしましょう。 (5) 芸術は表現の教科です。「できるか」ではなく「やろうとしているか」が大事です。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業・学習課題への取組、確認テスト・実技テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業・学習課題への取組、実技テスト・確認テスト・レポート等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業・学習課題への取組、レポート、授業中の発言、実技テスト・確認テスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		芸術の学習において、その根本にあるのは「美」に対する探究心です。それを主体的に動かすためには、何よりも「美」を感じる、そして感じようとする姿勢を持つことが必要になります。まずは、様々な音楽に耳を傾けてみましょう。それらから受けた感動を、自分なりに表現してみましょう。そこから芸術の学習は、始まります。と同時に、自分を表現する基本的な技術を身につけるために、ある程度繰り返しの練習が必要です。自分の現在の力に応じて、個々の目標を設定し、その目標を達成できるように努力しましょう。								

教 科	芸 術	科 目 名	音 楽 I		
到達目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。				
場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	
MUSIC NOTEの学習	MUSIC NOTE 確認テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった	
授業の内容	実技テスト 確認テスト レポート	授業の内容を理解し表現できた	授業の内容をおおむね理解し表現できた	全く理解・表現できなかった	
到達目標	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。				
場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	
表現の授業 (歌唱・器楽・創作)	確認テスト 実技テスト 発表	諸要素の働きを感受し、イメージをもって具体的に表現を創意工夫できた	諸要素の働きを感受し、イメージをもって表現を創意工夫できた	イメージをもって表現することができなかった	
鑑賞の授業	レポート 発表	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら深く味わって鑑賞できた	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞できた	よさや美しさを自ら味わって鑑賞できなかった	
到達目標	主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	
心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である	
グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった	

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	芸術		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	美術Ⅰ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		(1)表現の活動では、主題生成の能力、創造的に構想する能力、表現しながらさらに構想を確かめ練り直す能力、材料や用具の特性を生かし創意工夫して表す技能などを育成する。 (2)鑑賞の活動では、美術作品や文化財等に映し出された美や創造の素晴らしさ、人々の生活や願いなどを感じ取るとともに、生活を心豊かにする美術の働きや美術文化を理解する能力などを育成する。								
教 材		使 用 教 科 書 高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）								
学 習 の 内 容	1 学 期	オリエンテーション	・高校美術の意義、学習内容の心構えについて				実 施 し ま せ ん	○	○	○
		鉛筆デッサン	・鉛筆の削り方、使い方、明暗、陰影などの表し方を身につける					○	○	○
		人物画	・写真を元に描くフोटリアリズムの作品を参考に鉛筆を用いて描き、モノトーンの表現を幅広く知る					○	○	○
鑑賞	・作者の視点に着目して、絵画を魅力的にしているものは何かを考え、表現の意図や工夫を読み取りながら鑑賞し、表現につなげる				○	○		○		
	2 学 期	静物画	・身近なものを見つめ直し、良さや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練り、配置や構図を工夫して表現する ・アクリル絵具やキャンバスの特徴を知り、表現につなげる					○	○	○
鑑賞		・美術館の役割や楽しみ方について学び、文化祭での展示方法へ活かせるよう、作品展示の準備をする				○		○	○	
3 学 期	デザイン	・デザインの世界の幅広さや役割を理解し、デザインとは何か、デザインするときに大切なことは何かを考えながら鑑賞し、表現につなげる ・色彩、文字、美の秩序などについて学び、季節を平面構成で表現する				○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)作品の提出 (2)ワークシート、スケッチブックの提出 (3)画材の適切な使い方を理解し、安全に丁寧に使用する (4)作品の鑑賞活動に積極的に質問や感想を発表する (5)集中して作品を制作する								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・作品等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	芸術	科 目 名	美術 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	画材やモチーフの特徴を理解し、制作に活かすことができた	画材やモチーフの特徴を理解することができた	全く理解できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック ワークシート 活動の様子	たくさんのアイデアを出し、十分に構想を練ることができた	いくつかアイデアを出し、構想を練ることができた	アイデアを出せず、構想を練ることができなかった
	鑑賞	ワークシート 発表 活動の様子	造形的な良さや美しさ、作者の心情や工夫について考え、十分に感じ方を深めることができた	造形的な良さや美しさ、作者の心情や工夫について考え、感じ方を深めることができた	全く考えることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に美術の幅広い創造活動及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	作品に対して疑問や課題を見つけ、解決することができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	集中して時間いっぱい作品制作に取り組むことができた	集中して作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	芸術		履修学年	1年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	書道Ⅰ		単 位 数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		小・中学校国語科書写の学習を基盤とし、書道の幅広い学習活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。書に親しむ活動を通して完成を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための能力を伸ばす。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすとともに、書の伝統と文化について理解を深める。						実 施 し ま せ ん			
教 材		書道Ⅰ（教育出版）									
学 習 の 内 容	1 学 期	書の世界へようこそ		書の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。					○	○	○
		硬筆の学習		ボールペン等の書き方について習得します。					○	○	○
		漢字の学習		書の学習を始めるにあたり、書体の変遷や宅本についての理解を図ります。					○	○	○
		楷書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
		行書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
	2 学 期	篆書、隸書、草書		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
		仮名の学習		我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気味わいその過程や仮名の種類、字源について理解していきます。					○	○	○
		料紙を作ってみよう		仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深めます。					○	○	○
	3 学 期	漢字仮名まじりの書の学習		これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名まじりの書の制作を身につけます。					○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 清書作品の提出 (2) 途中経過の作品(添削)提出 (3) ワークシートの提出 (4) 作品制作に粘り強く取り組みましょう									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(作品・授業態度等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄											

教 科	芸術	科 目 名	書道 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	書のよさや美しさを感じ意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	鑑 賞	ワークシート	書のよさや美しさを感じ捉えることができる	書のよさや美しさを感じ捉えることがおおむねできた	全く捉えることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (添削)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり添削できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、添削できた	添削しなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	最後まで作品制作に粘り強く取り組むことができた	作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科	外国語(英語)	履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	英語コミュニケーションⅠ	単 位 数			知 識	思 考 判 断	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、聞き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。							
教 材		使用教科書＜開隆堂＞Amity English CommunicationⅠ 副教材＜開隆堂＞ Amity English CommunicationⅠワークブック 副教材＜旺文社＞英単語ターゲットⅠ200【改訂版】 辞書＜大館館＞ベーシックジーニアス英和辞典							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し ブロック体、文・動詞・前置詞・短縮形、文型、英語のルール be動詞(現在)・肯定文・疑問文・否定文・疑問文・助動詞	中 学 期 考 査	○	○	○		
		5月	学び直し be動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文・一般動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文 GET READY①② 日常生活の中で身近にある英語/和製英語		○				
		6月	Lesson1 The Beautiful Scenery (be動詞／一般動詞の現在形) ・お気に入りの場所について紹介する。訪れたい場所について話し合う。		○				
		7月	Lesson2 My best friend (be動詞／一般動詞の過去形) ・大切にしている人を紹介する。登場人物の気持ちについて話し合う。		○				
		9月	Lesson2 My best friend (be動詞／一般動詞の過去形) ・大切にしている人を紹介する。登場人物の気持ちについて話し合う。		○				
	2 学 期	10月	Lesson 3 Love for Dance (進行形／助動詞) ・絵や写真から思ったことを表現する。ダンスの力について話し合う。		○				
		11月	Lesson 3 Love for Dance (進行形／助動詞) ・絵や写真から思ったことを表現する。ダンスの力について話し合う。		○				
		12月	Lesson 4 Endangered Species (不定詞) ・好きな動物について紹介する。絶滅危惧種を救うために何ができるかを話し合う。		○				
		3 学 期	1月		Lesson 4 Endangered Species (不定詞) ・好きな動物について紹介する。絶滅危惧種を救うために何ができるかを話し合う。			○	
			2月		Lesson 5 The History of Chocolate (動名詞) ・大切な人に贈りたいと思う贈り物について説明する。チョコレートの歴史について話し合う。			○	
3月	Lesson 5 The History of Chocolate (動名詞) ・大切な人に贈りたいと思う贈り物について説明する。チョコレートの歴史について話し合う。 1年間の復習		○						
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2)必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3)授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4)授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5)週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業・学習課題・言語活動への取組、パフォーマンステスト・定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業・学習課題・言語活動への取組、パフォーマンステスト・定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業・学習課題・言語活動への取組、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、パフォーマンステスト・定期考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅠ	
-----	---------	-------	--------------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答でき ており、間違いの修正や書き直しもな されている。	一部空欄はあるが、ワークブックに 記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができて いない。
	授業	パフォーマ ンステスト	課題の内容を正しい英語にまとめ、 相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情 報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表 現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に 用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概 ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現がで きていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間 違いの修正や書き直しもされてい る。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記してい ない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工 夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現がで きている。	自分の考えを記したり表現がで きていない。
	授業	英作文 レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊か に記している。	自分の考えを記したり、表現がで きている。	自分の考えを記したり、表現がで きていない。
	授業	発表 プレゼンテー ション	ある程度の長さで、自分の考えを 深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを 概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。 著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマ ンステスト	相手に伝わるような表現に言い換え たり、理解してもらえるように質問したり して、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝え られている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外 国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おう としている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分な りに工夫を加えながら分かりやす く整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシ ート	単元の学習内容を振り返り、改善 点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りでき ている。	単元の学習内容を振り返りがで きていない。
	提出物	課題 提出物	期日内に提出ができ、内容も完全 に記している。	提出ができ、内容も概ね記され ている。	提出ができない。内容が記され ていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答 えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられ ている。	発表内容を自身のものと捉えら れていない。
	授業	行動観察	授業に根気強く真摯に臨もうとす る意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとす る意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む 姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマ ンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるよ うに発表内容を工夫して詳しく話そうと している。	相手に伝わるように話そうとし ている。	Bを満たしていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	1 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	ビジネス基礎		単 位 数	3 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 ビジネス基礎 補 助 教 材 等 それぞれの単元で適宜必要な資料を加えることがある								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1章 商業の学習とビジネス			・ビジネスの今と商業科目について学習する	1 学 期 中 間	○		○
		5月	2章 ビジネスとコミュニケーション			・ビジネスにおけるコミュニケーションの必要性について学習する		○	○	○
			1 コミュニケーション			・コミュニケーションとは何か、その種類について学習する		○	○	○
			2 ビジネスマナー			・ビジネスマナーとその重要性について学習する	1 学 期 期 末	○	○	○
		6月	3 情報の入手と活用			・情報の重要性和その入手のしかたを学習する		○	○	○
			3章 経済と流通の基礎			・経済の仕組みと合理的選択、価格について学習する		○		○
	2 学 期	7月	4章 さまざまなビジネス			・ビジネスの種類について学習する	2 学 期 中 間	○		○
			1 ビジネスの種類 2 小売業			・これから求められるものはどのようなビジネスかについて考察する		○	○	○
		9月	3 卸売業 4 物流業			・卸売業・物流業の役割、種類について学習する	2 学 期 期 末	○		○
			5 金融業 6 情報通信業			・金融業・情報通信業の役割、種類について学習する		○		○
		10月	5章 企業活動の基礎			・企業の役割、経営や組織について学習する	学 年 末	○	○	○
		11月	6章 ビジネスと売買取引			・売買取引について、また用いる文書について学習する		○	○	○
		12月	7章 ビジネス計算			・ビジネス計算の基礎について学習する		○	○	○
			1 ビジネス計算の基礎			・割合や仕入原価、売価について学習する		○	○	○
			2 ビジネス計算の応用			・ビジネス計算の応用について以下のとおり学習する		○	○	○
						度量衡の換算		○	○	○
						外国貨幣の換算、利息の計算		○	○	○
	3 学 期	1月	8章 身近な地域のビジネス概要			・地域の現状を把握する		○	○	○
2月		1 地域の魅力と課題			・地域の魅力を伝え、課題を見つける		○	○	○	
3月		2 地域ビジネスの動向			・地域活性化の提案と見つけた課題に対して行動する		○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの社会現象や流通と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 発問への解答や発表、実習などに積極的に取り組みましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・ 科目の特性上、2章では担当教師以外の方も授業に加わったり、8章では校外での学習をしたりすることもあります。 ・ 日頃からニュースなどに触れ、時事問題に関心を持つようにしましょう。								

教 科	商業	科 目 名	ビジネス基礎
-----	----	-------	--------

知識・技術	到達目標	・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習・演習の 手順	レポート	手順をフローチャートや図など分かりやすい手段でまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習・演習の 結果の記録	レポート	実習・演習の結果を記録し、学んだことを整理できる	実習・演習の結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や 仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実習・演習の 結果の考察	レポート 発表	実習・演習の考察を行い、そこから提言を発信することができた	実習・演習の結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から 疑問に思うこと、 その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいこと と授業の振り返り	レポート 振り返り シート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習 (個人学習含む)	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	1 学年 3 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
科目名		簿記		単 位 数	知 識 ・ 技 術			思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		(1) 実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 (2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付ける。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力を身に付ける。 (4) 取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 新簿記 補 助 教 材 等 実教出版株式会社 最新段階式 簿記検定問題集								
学 習 の 内 容	1 学 期	4 月 第 1 章 簿記の基礎（目的・種類・歴史・前提条件）	簿記の基礎を理解する		1 学 期	○	○	○		
		5 月 第 2 章 資産・負債・純資産の理解と貸借対照表の作成	資産・負債・純資産について学習する			○	○	○		
		第 3 章 収益・費用の理解と損益計算書の作成	収益・費用について学習する			○	○	○		
		6 月 第 4 章 取引と勘定の理解	取引と勘定について学習する			○	○	○		
		第 5 章 仕訳と転記の記帳方法	仕訳と転記について学習する			○	○	○		
		第 6 章 仕訳帳と総勘定元帳の記帳方法	仕訳帳と総勘定元帳について学習する			○	○	○		
		7 月 第 7 章 試算表の作成	試算表の作成方法を学習する			○	○	○		
		第 8 章 精算表の作成	精算表の作成方法を学習する			○	○	○		
	2 学 期	9 月 第 9 章 決算の意味と一連の手続き	決算の意味と一連の手続きを理解する		2 学 期	○	○	○		
		第 10 章 現金と預金の取引と補助簿（出納帳）の記入	現金・預金・補助簿記入について学習する			○	○	○		
		10 月 第 11 章 商品売買の取引（分記法と三分法の理解）	商品売買の取引について学習する			○	○	○		
		第 12 章 掛け取引（売掛金・買掛金・貸倒引当金）	掛け取引について学習する			○	○	○		
		第 13 章 手形の取引（約束手形・為替手形・手形割引）	手形の取引について学習する			○	○	○		
		11 月 第 14 章 有価証券の取引（取得と売却）	有価証券の取引について学習する			○	○	○		
		第 15 章 債権・債務の取引（貸付金・借入金・未収金・未払金）	債権・債務の取引について学習する			○	○	○		
		第 16 章 固定資産の取引（取得と売却）	固定資産の取引について学習する			○	○	○		
		12 月 第 17 章 個人企業の資本の取引（追加元入れ・引き出し・税金等）	個人企業の資本の取引について学習する			○	○	○		
		第 18 章 販売費及び一般管理費と税金の取引（個人企業の税金）	販売費および一般管理費と税金の取引について学習する			○	○	○		
		第 19 章 決算整理の意味（整理事項の記帳）	決算整理の意味を理解する			○	○	○		
	3 学 期	1 月 第 20 章 8 桁精算表の作成	8 桁精算表の作成方法を学ぶ		3 学 期	○	○	○		
		第 21 章 帳簿決算の意味と財務諸表の作成	帳簿決算の意味と財務諸表の作成方法を学ぶ			○	○	○		
		2 月 第 22 章 会計帳簿の役割と種類	会計帳簿の役割と種類について学習する			○	○	○		
		3 月 第 23 章 伝票の作成	伝票の作成方法を学ぶ			○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		1. 簿記は理解（集中学習）と定着（分散学習）が重要になります。自ら意識して学習に取り組んで下さい。 2. 理解（集中学習）には予習が欠かせません。指示がなくても自ら積極的に予習に取り組んで下さい。 3. 定着（分散学習）には、理解した内容を練習問題などを使って解くなど、“毎日”少しずつ反復した取り組みをすることが大切です。 4. 実社会はコンピューター処理になっています。単に記帳の技術を学ぶだけでなく、単元ごとの意味を理解して、ビジネスにどのように生かしていくのかを考えながら学習を進めるように努めて下さい。								
評 価 方 法		定期テストでは簿記の記帳の技術を習得しているかを確認します。 単元別テストでは、各章の内容を理解しているかを確認します。 予習の成果と単元別テストの結果を相対比較しながら、理解度を確認します。 普段の身近な実社会と簿記の関係に気付いているか、理解しているかを確認します。								
備 考 欄		商業科の基礎となる教科であることに加え、積み重ねが大事な教科ですので、欠席をすると大きく自己の利益を失います。また、身近なビジネスと結び付けて「自分が会社の経営者」という視点で取り組むようにして下さい。								

教 科	商 業	科 目 名	簿 記
-----	-----	-------	-----

知識・技術	到達目標	・ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付ける。 ・記帳、決算など適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	記帳の技術を習得し、取引を仕訳することができる。	単元テスト	問題に対して適切な解答を書き、自分の意見を述べることができた。	問題に対して適切な解答を書くことができた。	問題に対して間違った回答を記入している。
	記帳の技術を習得し、仕訳を転記することができる。	単元テスト	問題に対して適切な解答を書き、自分の意見を述べることができた。	問題に対して適切な解答を書くことができた。	問題に対して間違った回答を記入している。
	記帳の技術を習得し、帳簿を作成することができる。	単元テスト	問題に対して適切な解答を書き、自分の意見を述べることができた。	問題に対して適切な解答を書くことができた。	問題に対して間違った回答を記入している。
	各章の取引や記帳の意味を理解し、発表ができる。	単元テスト グループワーク活動	積極的に発言をして、課題に取り組み、かつビジネスの視点を持てる。	積極的に発言をして、課題に取り組む姿勢がみられる。	問題に対して間違った回答を記入している。 活動に参加しない。
思考・判断・表現	到達目標	・ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付ける。 ・簿記の知識、技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法と実務に適用することに伴う課題を考え、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実社会でのビジネスでの活用方法を理解する。	課題ノート	各単元と実社会の繋がりを自ら調査しノートにまとめ発表することができる。	各単元と実社会の繋がりを発表することができる。	発表が抽象的で具体的に表現されていない。
主体的に学習に取り組む態度	各種帳簿から取引の実態を考察できる。	グループワーク活動	与えられた課題から取引を考え、その実態を正確に発表できる。	与えられた課題から取引を考え、その実態を発表できる。	与えられた課題から取引を考察することができない。
	到達目標	ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	身近な地域の課題を取り上げて、各単元の学びに繋げることができる。	グループワーク活動	自ら積極的に地域社会におけるビジネス活動をまとめることができる。	地域社会のビジネス活動を具体的に調査した。	活動報告書が抽象的で具体的に表現されていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	1 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	情報処理		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 実教出版株式会社 情報処理 補助教材等 それぞれの単元で適宜必要な資料を加えることがある								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1章 企業活動と情報処理	・情報を正しく取り扱うためのルールやマナーを学習する		1 学 期 中 間	○		○	
		1 情報処理の重要性	・情報の作られ方、活用の仕方、重要性を学習する		○			○		
		5月	※ Warm-up キーボードを使って練習してみよう!!	・速く正確なタッチタイピングができるよう習得する		1 学 期 期 末	○	○	○	
		2 情報モラルと法規	・社会生活において情報を正しく扱うための考え方やルールを学習する		○		○	○		
			※ 情報社会の価値とモラル、情報社会と法規	・情報社会のモラルと法規について学習する		○	○	○		
		6月	※個人情報の保護	・個人情報の保護とその保護推進のための法律について学習する		2 学 期 中 間	○		○	
	7月	3 コミュニケーションとデザイン	・情報発信、コミュニケーションに必要な情報デザインについて学習する		○		○	○		
	2 学 期	9月	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	・情報通信ネットワークを活用するための知識と技術を学習する		2 学 期 期 末	○	○	○	
		1 コンピュータシステムの概要	・業務や目的に適したコンピュータと利用技術を選択する力を身に付ける		○		○	○		
			※ 情報の表現 数値の表現	・数値の変換について学習する		○	○	○		
			※ 画像容量の計算演習	・画素数やデータ量の求め方を学習する		○	○	○		
		10月	2 情報通信ネットワークのしくみと構成	・インターネットの基本や接続形態、プロトコルについて学習する		学 年 末	○		○	
		11月	3 インターネットの活用	・インターネットの重要な役割と知識、技術について学習する			○	○	○	
	3 学 期		※ 情報の新しさ	・情報の新しさを判断するための文章の読解力を身に付ける		学 年 末	○	○	○	
		12月	4 情報セキュリティの確保	・情報セキュリティの役割と確保の方法について学習する			○		○	
			※ コンピュータに対する脅威	・最近の被害のニュースを調べ、発表する		○	○	○		
1月		3章 情報の集計と分析	・情報を有効かつ効果的に処理、分析する能力を身に付ける		学 年 末	○	○	○		
		1 ビジネスと統計	・情報を分析し、傾向を把握する方法を学習する			○	○	○		
2月		2 関数を利用した表の作成	・表計算ソフトウェアの活用方法を学習する			○	○	○		
3月	3 グラフの作成	・表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を学習する		○		○	○			
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 科目の特性上、情報機器の適切な扱い方を習得しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 発問への解答や発表、実習などに積極的に取り組みましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・ 通信機器やソーシャルメディアを使用する際、情報モラルを厳守してください。 ・ 口頃からニュースなどに触れ、時事問題に関心を持つようにしましょう。								

教 科	商 業	科 目 名	情報処理
-----	-----	-------	------

知識・技術	到達目標	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた。また情報機器を適切に扱うことができた。	授業の内容をおおむね理解でき、情報機器も扱うことができた	全く理解できず、情報機器も扱うことができなかった
	実習・演習の 手順	レポート	手順をフローチャートや図など分かりやすい手段でまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習・演習の 結果の記録	レポート	実習・演習の結果を記録し、学んだことを整理できる	実習・演習の結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や 仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実習・演習の 結果の考察	レポート 発表	実習・演習の考察を行い、そこから提言を発信することができた	実習・演習の結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から 疑問に思うこと、 その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいこと と授業の振り返り	レポート 振り返り シート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習 (個人学習含む)	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

